

「新田五町内合同盆踊り大会」の開催

～仙台市立新田小学校 学校支援地域本部～



新田小学校は、新田一丁目から五丁目、新田東、小鶴、燕沢、原町苦竹など広範囲にわたる地域に位置しています。この地域は、かつて小鶴ヶ池に鶴が舞い降りる風景が見られた自然豊かな土地であり、現在も公園や緑地が点在し、こどもたちの健やかな成長を支えています。

【新田五町内合同盆踊り大会とは？】

毎年8月、新田小学校で開催される盆踊り大会は、地域の温かなつながりを感じられる特別なひとときです。今年はプラスバンド部の演奏で幕を開け、ソーラン節やバトントワーリング、チアリーディング等の演技や、模擬店で会場は笑顔と熱気に包まれました。特に、地域を支える力強い一步として、小学6年生が自分たちで模擬店の企画・運営に挑戦するなど、頼もしい姿を見せてくれました。

子どもの声

励ましと感謝の声が、私たちの自信。

盆踊り大会の様子



○プラスバンドの演奏では、これまで応援してくれた保護者や地域の皆さんへの感謝の気持ちを込めて演奏しました。「演奏頑張ってね」と声を掛けてもらったり、「上手だったね、すごい！」と言ってもらったりして、すごくうれしかったです。プラスバンドやソーラン節で、地域の方々に自分たちの頑張りを見てくれることで、応援してくれる人がもっと増えると思いました。たくさんの人々の前で演奏した経験は、自信につながって、これから活動にもきっと役立つと思います。

○模擬店の準備では、クラスのみんなとアイデアを出し合ったり、協力して作業したりするのがすごく楽しかったです。地域の人から「頑張ってね」と声をかけてもらったり、下の学年の子から「ありがとう」と言われたりして、とてもうれしい気持ちになりました。自分たちでお店を運営するのは初めてだったけど、地域の人の優しさにふれたり、友達ともっと仲良くなれたりして、すごくいい経験になりました。

地域の声

地域の大人が楽しむ、地域のこどもも楽しむ。



「笑顔でこどもたちにかき氷をふるまう新田小学校おやじの会の皆様」

「新田五町内合同盆踊り大会」は、新田小学校おやじの会の方々を中心に運営されています。今回、大会実行委員長の小林さんとおやじの会会长の加藤さんにお話を伺いました。

小林さんは、「こどもたちは地元のお祭りに参加することで、自分が地域の一員であることを自覚できます。地域の大人とこどもが笑顔で楽しく関わり合うことで、地域全体でこどもたちを見守る目ができあがります。」と話していました。

加藤さんは、「大人が楽しそうに遊ぶと、こどもたちも一緒に活動したくなります。上級生が楽しそうに活動していると、下級生もまねしたくなります。このように、大人からこどもへ、そしてこども同士で温かく関わり合う循環が地域に生まれます。」と話してくれました。

身近な大人が楽しむ姿に、こどもたちの心は動かされます。世代を超えてつなぐ「楽しむ思いの力」を強く感じました。

学校の声

地域の絆が生む、こどもたちの安心と学び。



新田小学校

はやさか
早坂教頭

早坂教頭は、「地域の方々とこどもたちが共に楽しみながら活動することで、顔を覚え合い、自然なあいさつや声掛けが生まれる。そのつながりは、こどもたちに安心感を与え、地域全体に温かな目が広がる。見守りの輪が広がることは、いじめの未然防止にもつながり、地域の絆がさらに深まっていく。」と話していました。

また、6学年担当の千葉教諭は、「こどもたちは、模擬店の内容を決める際に、お互いの考えを尊重し合いながら折り合いをつける力を学ぶことができました。」と話していました。

地域とこどもの顔が見える関係は、こどもたちに安心感をもたらします。その温かなつながりこそ、未来を育む大切な地域の絆だと感じました。

【まとめ】

新田小学校では、2022年に「おやじの会」を中心に『新田 SPOT (Social Parent Oyaji Teacher)』を結成し、地域全体で学びのコミュニティを築き、こどもたちの健やかな成長を支える活動を続けています。取材で最も心に残ったのは、地域の方々とこどもたち、そして教職員が笑顔で声を掛け合う温かな光景でした。新田地区が「顔を合わせたつながり」を何よりも大切にしていることが、そこから強く伝わってきました。これからも、地域と新田小学校の協働は、世代を超えて絆を深めながら、未来へ向かって力強く歩み続けます。

